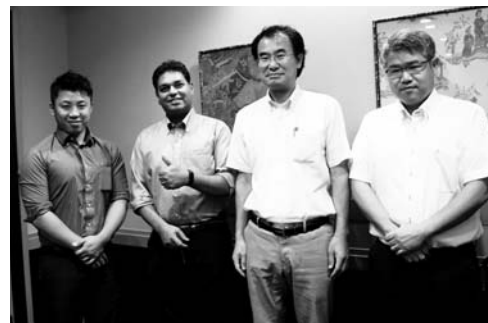


深化する交流

外国人の本音に迫る！



遠州ダイバーシティ特別座談会

在住外国人の実態とは？

弊誌では、昨年より遠州地域で活躍する外国人の横顔を紹介するコーナー「遠州ダイバーシティ」をスタート。日本での暮らし、仕事の話などを伺いながら、多文化共生を目指す当地域の現状や課題を探っている。

今回は、中国の孔昌一氏（大学教授）、バングアラデシウのウーシャ・ランジャン氏（英会話スクール経営）、ブラジルの仲本和利氏（人材派遣会社取締役）と縄手照氏（保険会社営業）の4氏を招いた座談会を開催した。それぞれの仕事や生活にまつわる忌憚のない意見を伺う事ができたが、コロナ禍における問題や課題も浮き彫りに…。外国人と日本人が共生していく上で必要な事とは？ビジネスとの関わりなど未来への展望は？生の声を「一読下さい」。

深刻なコロナの影響

世界的に新型コロナウイルス感染症が広がっていますが、大学の授業や学生への影響はありますか？

孔氏：大学では授業を対面からオンデマンド方式に切り替えました。現在、対面授業をしているのはほんの一部だけで、その授業も通常より広く教室のスペースを取っていません。試験もできるだけオンライン上で行って学生を一つの教室に集めないようにし、少しでも感染のリスクを避ける工夫をしています。

学生達への影響としては、アルバイトができなくなり、生活が苦しくなったケースや母国に一度帰国した留学生が

コロナの影響で戻れないケースがありました。国からの補助だけでなく、アルバイトができずに収入が下がった事を証明すれば、大学側から補助を出しています。

これまでは考えられなかった事ですが、今後、入学試験の二次選抜も体調が悪い人は別日で試験を行う予定です。派遣業界への影響はリーマンショックと比較してどうでしょう？

仲本氏：コロナの影響はひどく、リーマンショック以上です。全世界に影響している事で、海外向けの部品を作らなくなった工場もあり、浜松国際交流協会とも派遣切りに対して何かできないかと相談中です。

リーマンの時には仕事を失



静岡大学教授 孔 昌一氏

平成5年来日。平成20年から静岡大学工学部で准教授を務め、同29年に教授に就任。

深まる多文化共生

暮らし・仕事・教育環境…

ったブラジル人が町にあふれ派遣村などができました。今回はそのような事にさせたくないのですが、毎日のようにブラジル人から電話が来て仕事を探しているという相談を受けています。本来なら派遣先が解雇した時点で、派遣会社が決めた会社を紹介する事が必要ですが、弊社では派遣先で仕事がない人を解雇せず、休業扱いにしています。

今後は、そういった派遣社員を自宅待機でキープし、即戦力として派遣先にアピールしていきたいです。リーマンと比較すると状況は悪いですが、リーマンの経験から、給付金や失業保険、ハローワークなどに関して対応は格段に良くなっています。

「ブラジルの方は派遣が多いのでしょうか？」

仲本氏：ブラジル人のほとんどは派遣で働いています。派遣の状況を見れば浜松のブラジル人の動向が分かると言っても過言ではありません。同じブラジル人であってもプ

ラジルに家族が残っている人は焦っていると思います。日本に家族がいる人はそこまで心配してはいないと思います。

「コロナは様々な業界に悪影響を与えています。派遣先の企業などの現状はどうでしょうか？」

仲本氏：7月になってようやく明るい話が出ていて、工場などは休業や短縮勤務から通常勤務に戻っています。8月はもとも休みが多いため、何とか持ちこたえられそうです。

「バンングラデシユ国内の状況や事業への影響はどうでしょうか？」

ウーシヤ氏：状況は悪くなっています。政府も対策はしていますが、人口が多く人口密度も高い国なので、検査が間に合っていない。会社は閉鎖され、買い物にも行けない人が多く、学校も休みで外に出ると警官に外出の理由を質問されています。首都などで一度感染が広まると、人口密度の高さから一気に拡大するでしょう。田舎はまだ落ち着いていると聞いています。

「一番の問題は食料がない事で、非常に切実です。国内では軍が食料を配っています。その日暮らしの人を助けるために、個人で寄付をしましたが、それだけでは助けられる範囲に限りがあるので、2カ月前にボランティアグループを作り、困っている人を捜して食料を与えたり、他の人からも寄付を集めています。」

～地域で活躍する外国人の実像～

ENSHU
DIVERSITY

遠州ダイバーシティ



ウーシャ・イングリッシュハウス代表
ウーシャ・ランジャン氏
平成8年来日。学生・社会人の英会話教室運営。

では支払いを延期していますが、知らない方もいます。伝えたくても電話に出ないので聞いてもらえない状況です。他にも、東京のブラジル大使館と提携してコロナ関係の案内をポルトガル語で告知しましたが、保険の失効が出てしまっています。そのため、更新はまだ間に合うという事も伝えていきたいです。

仲本氏：自動車保険が失効してしまい、通勤できないといった相談は受けています。そういった方には無料で送迎をしています。

— 給付金の活用に関して何か特徴はありますか？

仲本氏：優先順位が独特な人が多く、給付金でバーベキューをしたという話もあり、バーベキュー用の肉が売れていると聞きました。また、ゴールデンウィーク前にオープンした店がセールをやった事も重なり、人が集まっています。もっとコロナやマスクについてポルトガル語で周知するよう保健所や浜松国際交流協会に相談しました。

私がバンクラテシユ国内で運営している日本語学校ではオンライン授業をしています。日本でもスタジオを作りバンクラテシユに配信しています。バンクラテシユでは日本の大学に行きたい人が多いですが、N2レベル程度の日本語能力は欲しいので、バンクラテシユで勉強してから来日します。日本の英会話教室では、新規の生徒が入らない状況です。新しい事を始めようという気持ちになれないのでしよう。教室でもオンライン授業を始めますし、静岡大学での英語の授業もオンラインでやっています。

コロナの影響を受けて、これからは仕事のやり方を変えないといけないでしょう。例えば、直接会わなくても仕事ができるように、オンラインでミーティングができる設備の導入が求められます。そのためIT業界は需要があると聞いています。

— 勤務されている保険会社の対応はどのようなものですか？

繩手氏：私の本業は保険業ですが、お客様から、4月中旬から仕事がないのでバイト先を紹介してほしいという電話があり、その時から保険料を払えない方が出てくるだろうと頭に浮かんでいました。そして危惧したように、徐々に保険料を払えない方が増えてきました。未払いの方には連絡をしますが、皆さん状況は良くないようで、電話しても出てもらえない事があります。弊社のコロナ対応として、収入が減った方限定で12月ま



セイワサポート(株) **仲本 和利氏**
平成2年来日。人材派遣業を営むセイワサポート社の取締役として活躍中。



あいおいニッセイ同和損害保険(株)浜松支店

縄手 照氏

保険営業マンとして、主にブラジル人を担当。

迫られる次の一手と対策

縄手氏：確かにバーベキューやホームパーティーの話は聞きました。他にも、7月になつたら保険の新規契約が増え、車を新しく買う人も増えたようです。最近になってようやくブラジル国内の深刻な状況が伝わり、中には親戚や知り合いが亡くなった人もい

て、危機意識を持ち始めています。
孔氏：集まりすぎるのは良くないですが、経済を回すという意味では正しい動きかもしれないですね。
ウーシャ氏：確かに、ふさぎ込んでいるよりは良い事だと思います。

―多文化共生総合相談ワンストップセンターへの相談件数が月ごとに増えています。6月は1千件を超え、半分以上がコロナ関係の相談でした。周りの方々からの相談はありますか？

仲本氏：派遣先から、契約期間を3カ月から1カ月に変更されたという声はよく聞きますが、派遣法の変更によって同一労働同一賃金になり、結果、給料が上がったので助かっています。

縄手氏：実は日本で家を買うブラジル人が増えており、そういう人はコロナの影響をあまり受けていないと聞きま

した。自分が心配しても何も変わらない、今を凌げば良いと考える人が多いのです。

私の場合は子供の宿題が多くなり、両親だけでは教えるのも難しく、それに苦労しましたね。学校がしばらく開いていなかったのが理由なのかもしれません。これは先生達が宿題を増やしているのでしょうか？

孔氏：学生達はオンライン授業を受けていますが、先生達はなるべく質の良い授業を提供したいと考えて課題を増やしているの、学生さんの課題も多くなってしまうのではないのでしょうか。

ウーシャ氏：コロナを受けて学校の授業方針も変わっていくでしょうね。英会話教室では新規の入会がありませんが、現在の生徒さんは辞めていません。
―コロナとは関係なく、日本の生活で困った事などはありましたか？

孔氏：浜松の行政の対応はとて良いです。書類を揃えられないが大変ですが、それさえできれば窓口で対応してくれます。

ウーシャ氏：確かに、日本では賄賂を渡さないと窓口で迅速に対応してくれないとか上の人がいないのですぐに対応できないと断られたという話は聞きませんね(笑)。昔に比べると、外国人は日本の事を勉強してから来日するので、母国との違いを理解しています。大変なのは家を借りる時です。私も何回も引越しのししていますが、ゴミ出しのルールを守らないなどのイメージを持たれてしまい、近所付き合いが難しいです。

仲本氏：ブラジルもそうです。物件を紹介してもらっても大家さんとの調整が大変です。隣人から話しかけられないとか、嫌がらせを受けるといった話も聞きますが、市に相談しても対応が難しいようです。それでもブラジル人からは県西部が人気で、浜松が一番だと思えます。

浜松は通訳がいて助けを求めやすく、運転免許を取得する際もブラジル人向けのコースがあります。病院にも通訳がいて、昔ほど差別もありません。

～地域で活躍する外国人の実像～

ENSHU
DIVERSITY

遠州ダイバーシティ



終始和やかな雰囲気で行った座談会。出席者同士の交流も生まれ、新たなビジネスのつながりを模索する動きもあった。

せん。
繩手氏：生活しやすい分、日本語を覚えない人が多いので、保険契約ではポルトガル

未来へ向けた課題と展望

—今後の生活や仕事についての課題は？

繩手氏：もし、日本にずっといるのなら日本語を覚えてほしいので、積極的に教えていきたいです。親が日本語を話せないと授業参観などの学校のイベントも伝わらず、書類の内容も理解できません。そういった方々に丁寧に対応しながら、契約したら終わりではなく、長く付き合いたいから信頼関係を続けたいです。

—中国から来日する人も今後増えるのでしょうか？またコミュニティのようなものはありますか？

孔氏：学生コミュニティについては各大学にあります。就職してからはつながりが薄

語と日本語の重要事項説明書を通渡して覚えてもらっています。地域の自治会などは苦勞していると思います。

い。

日本に来る中国人の特徴として「爆買い」がよく報道されていますが、それは富裕層の一部が日本を観光し、購入商品が自分用だけでなく、土産として知人に贈るため購入するのであります。

今後、中国とアメリカの関係が悪化し、アメリカから企業の撤退や留学生の帰国も増えるでしょう。中国の学生さんがこれまでの欧米への留学優先から日本留学へ転換し、中国からの留学生が増えるかもしれません。

—技能実習生などの外国人が増えていく中で、派遣のあり方はどうなるのでしょうか？

仲本氏：これから人手が足りなくなり、ブラジルだけでなく、多国籍の人材が求められます。そのため、ブラジル人以外の派遣社員も集めています。日本に慣れたブラジル人よりも、残業したがる他国の派遣社員や技能実習生を希望する企業も増えていますよ。最近問題になりましたが、エ

ンジニアの資格で入国したのに他の仕事をさせられ、2日だけアリバイ作りのためにエンジニアとして働くケースやホテルマンとして来日して3日だけホテルで働き、その後は別の仕事をしたというケースもありました。こういった事は決してあってはならない事です。低賃金で長時間働く実習生は競争も厳しく、これらの競争に負けないためにも幅広く人材を集めて派遣先に紹介していきたいです。

—最後にウーシャさん、今後の事業の展開について教えてください。

ウーシャ氏：今後は子供が減ってくるので、英会話教室だけでなく様々な事業を展開したいです。特に、母国の日本語学校で人材の育成をしたと考えています。他にも、企業のトップに対し、英語を使ったコミュニケーションやリレーションマネジメントの講義と実践をやってほしいです。私だけでなく、他の講師の育成も行い、多くの企業の要望に応えていきたいですね。また、毎週、経営者教員でピーチクリンのボランティア活動と交流会を行っています。少しですが、これを通じ、少しでも地域に恩返しをしていきたいです。

—遠州地域は他地域と比べて生活はしやすいようですが、民間レベルで改善できる部分はまだまだありそうですね。地域と外国人との関わり方についても検討する必要がありますね。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。